

支援対象競技会：Blackpool Dance Festival 2019

出場部門：シニア 35 ボールルーム

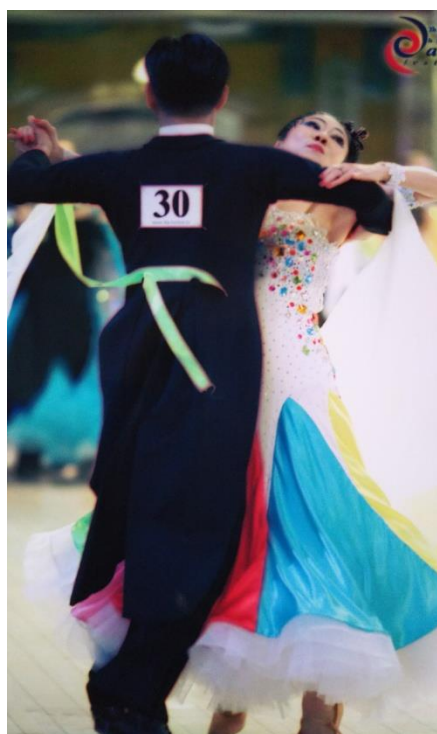
稲垣 知宏・尚美組

2018. 11. 11 イーストジャパンカップ ブラックプール
シニア 35 競技会において優勝し、

2019. 5. 24 ブラックプール シニア 35 ボールルーム
に出場しました。

結果は、総合 69 位（89 組中）2 ラウンド進出でした。

私たちは、5 月 22 日にブラックプール観戦ツアーに参加し、成田からマンチェスターへ渡航しました。競技会の前日は、アマボールルーム・ライジングスターを観戦し、イメージトレーニングをして挑むことができました。競技中の記憶は、ほとんど残っておりませんが、周りが海外選手（シニア 35 は国籍も年代も体型も性別も様々）ばかりでしたので、日本で踊るより面白かったです。曲順も、ワルツ、スロー、タンゴ、クイックの順番でいつもとは違いましたが、コーチから教えてもらい、事前に準備をしていたので、思ったよりスムーズに踊ることができました。1 ラウンド目より 2 ラウンド目の方が、より楽しく、いい踊りができていたような気がします。3 ラウンドへは進出ならず、でした。ただ初出場で生バンド演奏の中で踊れたのは、運が良かったです。ちょっとしたご褒美でした。あと、観戦ツアーと一緒に参加された方たちが、声援を送ってくれたり、



写真を撮ってくれたりしたのは、とても嬉しかったです。とても感謝しております。これからも、もっとダイナミックに踊れるように世界に挑戦して行きます。



ブラックプールへ行く前、2 月にアジアオープン（東京）のオープン戦に出場しました。2019 年の最初の競技会で、自己ベストに近い状態で挑みましたが、全く結果を残せませんでした。海外選手が数名いた中で踊り、自分なりに手ごたえもありましたが、結果はダメでした。そんな中、翌日、JAL 強化選手としてコンGRESSを受講しました。そこで、世界トップレベルの高度なダンスの知識を学び、今までのダンスや競技会に対する考え方や価値観が、大きく変わりました。特に、音楽性、芸術性、表現力（パフォーマンス）の重要性を強く認識させられました。あと、何より、忘れていた子供のように心からダンスを楽しむことの素晴らしさを感じました。翌週、3 月にアジアシリーズの韓国オープン（仁川）に初の海外遠征に行き、世界のトップレベルの次元の違いを肌で感じました。特に若い選手の柔らかい動きやシルエットの美しさは、生まれて初めて、生で体感する感覚としては衝撃的でした。やはり実戦で体感することにより、世界に挑戦する意義、精神的な強さ、進化の必要性などを実感しました。競技後、コーチから技術的なアドバイスも受け、このとき初めてブラックプールまでの方向性が見えたような気がします。この経験があったからこそ、ブラックプール本番では、落ち着いて楽しく踊れたのだと確信しております。

ブラックプールでは、自分たちの競技会が終わったあとは、後日アマチュアボールルームオープン戦を観戦しました。シニア 35 とは全くの別世界で、予選からハイレベルで、世界のレベルはどこまでも高く、美しいのだろうと感動しました。アマチュアラテンも、ライジング、オープンともに今まで見たことのない世界でした。ダンスタイムでは、世界のトッププロ選手の練習風景に刺激を受けながら、自分たちの練習もでき、フェスティバルの雰囲気も楽しめるという、なかなか日本では味わうことができない経験ができ、これこそ、ブラックプールの醍醐味だなと感じました。最終的には、プロライジングスター、オープン戦と日本のプロ選手の応援をし、フェスティバルの最終日まで連日、連夜、チームマッチ、エキシビジョン、ダンスパーティー、などなど毎日ダンス三昧で盛り沢山で楽しめました。なんと言っても本場のコンGRESは最高でした。一生の思い出です。

今回このような夢のような経験ができましたのは、JDC 東部・JAL 様による素晴らしい企画・ご支援のおかげでございます。心より感謝申し上げます。また、ブラックプール本番まで、稲垣組にご協力して下さいましたプロの選手の方々、コーチ、全国のファンの皆様、誠に有難うございました。心より御礼申し上げます。

今後もこの経験をしっかりと生かして、アマチュアダンス界の発展に益々努めて行きたいと思います。近い将来、若いアマチュア選手たちが地域・団体を問わず、世界にチャレンジし、日本のシニア 35 の選手層も益々厚く熱くなることを期待しております。私たちも、シニア 50 に出場できるまでダンスを続けて行きたいと思いますので、これからも選手の皆様、一緒に頑張ってください。